にこにこ☺新聞

第２１号
春号
2009年３月発行
編集長　石井
http://www.hyakuda-shika.com/

百田歯科・ファミリークリニック
【診療科目】
一般歯科・小児歯科
インプラント歯科・矯正歯科
審美歯科

3月になって少しずつ春らしい日が多くなってきました。桜も開花の日を待っぽかり。お花見シーズン楽しみですね。

「ひゃくだ」のインプラントの歴史

黎明期

今日は「ひゃくだ」の特色のひとつ　インプラント治療のお話です。

「ひゃくだ」のインプラント治療の歴史は10年前にさかのぼります。1999年（平成11年）に院長　百田昌史は現状の歯科治療に飽き足らず、新しい治療を模索していました。その当時　毎週のようにお福岡に渡りいろんな研修会に参加していました。歯科だけではなく自己啓発の講習会から健康に関わるいろんな会に出席していました。

実を言うと歯科医師が一番やりたがらない治療が、外科的治療のインプラントです。外科ですんので当然　施行責任が大きくリスクが高いからです。しかし最も歯科界において、これほど患者さんの生活質質を向上させるものもありませんでした。よってインプラントの研究が始まったのです。離島からの挑戦です。

インプラントもいろんなメーカーがあります。そのメーカーが講習会　研修会をやっているので、まずはその選択から始まります。最も歴史あるドイツのブローネマルク、その対抗馬　ITI、その他　アストラ　GC　POI　など２０数社の会社がひしめき合っています。そういう各社の講習会に週末になると毎週のように受講していました。権威のあるブローネマルクの場合はで診療を休んで大学で泊まりきりの状態で金、土、日と３日間連続の研修会のこともありました。

そういうことで結局２年近くが過ぎ、2001年８月おそらく日本の離島で初めて記念すべきインプラントの手術を施行しました。現在「ひゃくだ」のインプラントは経済性と信頼性でアストラ社のインプラントシステムを採用しています。アストラは世界的権威のブローネマルクの暖簾わけ的存在です。ブローネマルクは価格的にも非常に高価で、また顎の小さい日本人には不向きと思われますので、アストラの選択となりました。

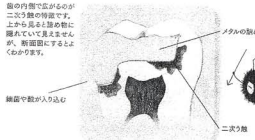
昨今　新聞等でインプラントの歯科治療の話題を聞くようになりました。施設が充実とか、国際資格とか、短期で終わるとかいろいろな長所をアピールしています。うちもアピールしたいと思います。「ひゃくだ」は宕岐で生まれ育った院長　百田昌史が責任を持って皆さんの歯・口の健康を保障します。本名を名乗っての勝負です。なぜならインプラントも歯科治療も『愛』が大事だからです。

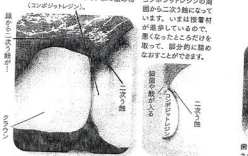
＊2009年３月現在「ひゃくだ」で施術されたインプラントは約100名、インプラント数250本に及びます。

歯科衛生士　久原則子からのメッセージ

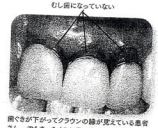
知らないうちに広がっていた二次う蝕！

歯の内側で広がるのが二次う蝕の特徴です。上から見ると歯の根に隠れていて見えませんが、断面図にするとよくわかります。



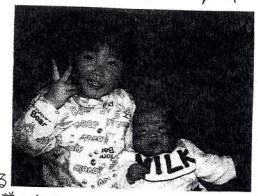


クラウンをかぶせた歯はむし歯にならないと思われがちですが、ヒマは根元の隙間部から二次う蝕がはじまることがあります。見た目にも分かりにくく、痛覚（神経）を抜いてあると痛みも出ないため、異変に気づかず発見が遅れ、抜歯になってしまうこも。クラウンだからといって油断は禁物です！



隙間さが下がってクラウンの縁が見えている患者さん。でもまったくむし歯になっていませんね。歯根が露出しやすくむし歯になりやすいですが、定期的メインテナンスとセルフケアで頑張っています。見かけが気にならないのでしたら、この隙子でいましょう！

患者さんは「なんとなく悪っぽいな」くらいにしか思っていませんでした。正常な歯並ったクラウンを外すとしのびず、歯科医師が悩むケース。でも放置しないとたいへんなことに……。

こんにちは　赤ちゃん

今年１月29日に新しい命が誕生しました。技工士の石川くんの第２子「史穏（しおん）くん」男の子です。子供に写っているのは、お姉ちゃんの華音ちゃん　３才。石川パパいわく「これから、きっと親子でおもちゃの激しいうばい合いが、くり広げられるんだろうなぁ…」との事。父子共々ママにしかられない様にね！